



# いま、地域と高校に 求められているもの。

今回の特集に快く協力してくれた、元気いっぱい日野高生の皆さん

## 特集 この人に注目



### 日野高校魅力向上コーディネーター かた ひら せい こ **片平誓子**

地元・日野高校と地域をつなぎ、高校の魅力アップに取り組み、県内初のコーディネーターが平成26年9月に誕生。彼女は、地域や高校が抱えるさまざまな課題に直面しつつも、豊かな自然や奥深い歴史に彩られた地域の特性を生かし、生徒の成長をサポートしています。そんな日野高校と地域をつなぐ架け橋として奮闘する姿を追いました。

### 高校存続問題を機に 地域連携の取り組みがスタート

鳥取県立日野高等学校は、平成12年4月、日野産業高等学校と根雨高等学校が統合し誕生。総合学科として、進学・音楽・情報ビジネス・アグリライフ・福祉健康の5系列、約160人の生徒を迎えスタートしました。

しかし、少子高齢化などによる生徒数の減少や市部への進学志向により、平成23年度には入学者が60人を下回るまでに。生徒数減少による高校存続問題が現実味を増す中、平成23年に、日野郡3町長や小中高の学校関係者、PTA、事業所代表などから構成された、「日野高校の在り方を考える協議会」が設立されました。

同協議会では、生徒数の減少を抑えて高校を存続させることが地域の重要な課題であるとして、先進地である島根県立隠岐島前高等学校の事例などを踏まえ、高校教育に地域資源を活用することや、コーディネーターを配置して地域連携を図る仕組みを確立させることを提言。これを受け、平成26年9月に「日野高校魅力向上コーディネーター」と

して、片平誓子さん（米子市）を採用し、高校魅力化に向けた取り組みが始まりました。

### 地域資源や人材を生かし 高校と地域を結ぶ

片平さんは、日野高校の学習カリキュラムを魅力あるものにするため、地域、行政などと連携し、「資源や人材」を生かした、地域が学校を支える体制や学習環境づくりを進めてきました。

生徒が地域に出かけ、課題などを探る「フィールドワーク」も、地域人材を生かした取り組みの一つ。生徒が町内の事業所などでインタビュー調査を行うことで、住民との交流を図るだけでなく、生徒



▲日野高ショップでは、生徒が育てた農作物や加工品のほか、地域の事業所と共同開発した商品も販売。地域の活性化にも一役買っています

自身の成長のきっかけにもなっています。

また、町内の養蜂家が育てた二ホンミツバチのハチミツを使った焼きドーナツを江府町のカフェテリア・アペゼと共同開発、ラベルデザインも生徒が考案し、日野高ショップや町内外のイベントなどに出品するなど好評を得ています。現在も、新たに町内産のエゴマを使ったドーナツの共同開発を行うなど、地域連携の可能性を広げています。

少子高齢化や人口減少が進む中、地域には次世代を担う人材の育成、高校も地域連携を生かす体制づくりなど、さまざまな課題が山積みとなっています。しかし、学校の存在は地域を元気にするための拠点にもなっており、その重要性は高まるばかりです。

高校の魅力化や地域の活性化を考える上で、「いま、地域や高校に求められているものは何か」。4ページでは、高校と地域をつなぐ架け橋として活動する片平さんに話を聞きました。